

令和4年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果分析（中学校2年生対象：英語）

1 結果のポイント

全問題数：33問（知識23問、活用10問）

カテゴリ別正答率

- ・教科全体では目標値を0.9ポイント上回っている。知識活用では、知識は1.7ポイント目標値を上回り、活用は0.8ポイント下回っている。
- ・領域別では、「聞くこと」が4.5ポイント目標値を下回り、「読むこと」は0.9ポイント、「書くこと」は6.3ポイント目標値を上回った。
- ・観点別では、すべての観点において目標値を上回っている。
- ・解答形式別では、「短答」「記述」において、目標値を上回っているが、「選択」においては目標値より0.5ポイント下回っている。

知識・活用正答率

領域	正答率	目標値
	国東市	
教科全体	56.7	55.8
知識	58.9	57.2
活用	51.7	52.5

領域別正答率

領域	正答率	目標値
	国東市	
聞くこと	52.7	57.2
読むこと	61.1	60.4
書くこと	54.3	48.0

観点別正答率

問題の内容	正答率	目標値
	国東市	
知識・技能	62.8	61.7
思考・判断・表現	49.4	48.7
主体的に学習に取り組む態度	51.3	51.2

解答形式別の結果

解答形式	正答率		目標値
	国東市	大分県	
選択	61.4	60.3	61.9
短答	59.6	54.4	51.7
記述	45.0	43.8	42.8

## 2 数値が高いもの

- 対話の流れと表から適切な語句を選ぶことができる。(さまざまな英文の読み取り)  
【+6.7 ポイント】
- チラシの内容を把握することができる。(長文読み取り)【+10 ポイント】
- 単語の並べ替えによる英作文  
(～s +名詞 【+11.3 ポイント】、 現在進行形の否定文【+9.6 ポイント】)
- 対話の流れに合った英文を書くことができる。(which を使ってどちらかをたずねる)  
【+15.6 ポイント】
- 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。  
【+6.4 ポイント】
- 自分の学校生活を含めて、まとまった内容で自己紹介する文を書き表すことができる。  
【+12 ポイント】

## 3 課題が見られた問題と指導の改善事項 (領域別)

### (1)「聞くこと」(内容理解)

- △絵を適切に表している英文の聞き取り (教科)【+5.7 ポイント】
- △対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題 (彼はだれかとたずねられて答える問題)  
【+4.8 ポイント】
- ▲英文の要点を聞き取る問題 (一番伝えたいことは?)【+13 ポイント】
- ▲英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答える問題  
【-22.9 ポイント】



○聞いて把握した内容について、適切に応じることに課題がある。目的をもって英語を聞くことを日常的に繰り返すとともに、聞いてすぐに話したり書いたりすることができる姿をめざす。

- ・聞き手が必要な情報を聞き取る
- ・話し手が伝えたいことを聞き取る
- ・説明の概要、話の要点を聞き取る

○ALTを活用し、コミュニケーションの中で、英語を聞いたり話したりすることを楽しむことを実感させる授業づくりをする。

○目的や状況、場面などの設定を工夫しながら、話し手がどのような人で、何を求めているのか、この場面でどのような応答がふさわしいのかを考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させる。

## (2) 「読むこと」

- ・語形・語法の理解  
疑問詞 when 【÷1.1 ポイント】， be 動詞 were 【÷7.5 ポイント】，  
代名詞の所有格 【÷4.6 ポイント】
- ・英文の必要な情報の正しい読み取り 【÷8.7 ポイント】



- 新文型導入の際には、語形・語法を理解した後、ポイントについて整理をさせる。ワークブックなどでドリルを徹底することや使用場面を設定し繰り返し使わせることにより定着を図る。
- 教科書の内容を合うかう際に、必要な情報や文章の概要・要点を読み取る活動を入れる。絵で選ばせる、タイトルをつけさせる、一番伝えなかったことについて考えさせるなど。
- 授業では、生徒が英文を自然に何度も読んでみたいと思うように、読みを深めるための発問の工夫をする。

## (3) 「書くこと」

- ・対話の流れに合った英文を書く問題（「一緒に行くことができるか」と相手を誘う）  
【÷13.6 ポイント】

- 会話表現を身につけるために、**Take Action!**や **GET Plus** で、スキットを作らせたり、場面を設定して会話をさせたりして、習った表現を使わせる工夫をする。
- スピーキングシートを作成し、会話表現に慣れる。

## 4 指導の改善のポイント（全体を通して）

- (1) 単に英文1文の意味を理解するのではなく、その文が使われる場面や状況を意識して、話の流れ全体を理解することができるようにする。
- (2) 言語材料について理解したり練習したりする活動に終始することなく、聞くことや読むことを通して得た情報や知識などについて、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現する活動につなげていくといった複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を充実させる。
- (3) 毎時間の授業で、生徒が英語を聞く・話す時間を十分にとる。教師自身がコミュニケーションの手段として授業中に積極的に英語を使用したり、ALTを活用したりすることで、授業全体を、英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」にする。
- (4) 生徒が、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動に取り組ませることを通して、「思考力、判断力、表現力等」を育成し、その繰り返しにより「知識及び技能」を獲得させる。その際、生徒がコミュニケーションの目的、場面、状況などを意識して活動を行うように課題を設定する。
- (5) 生徒指導の3つの機能を生かした授業づくりを推進する。自分で考え、表現し、それをペアやグループなどで伝え合わせることで認め合い、学び合うことができる授業をつくる。